

2024 年度 武庫川女子大学大学院 修士課程【一般前期募集】入学試験
文学研究科日本語日本文学専攻 専門科目

○解答例

1 次のA 古典文学、B 近代文学、C 日本語学に関する各語群の中から、それぞれ一つを選び、説明せよ。

A ① 万葉集

『万葉集』は現存する最古の歌集である。全二十巻で約 4500 首の和歌を収める。最終的な編者は大伴家持であるが、一回的な成立ではなく、複数回にわたる編纂を経て漸次増補され、八世紀の後半に現存の形が成立したと思われる。歌体は、短歌が多いが、そのほかに長歌、旋頭歌など多様な歌体があり、平安時代以降に短歌が圧倒的に優勢になるのに比して、バラエティに富む。作者未詳歌も含め、作者は貴族層に属すると考えられる。歌人の時代は4期に分けて考えるのが通例で、柿本人麻呂、山上憶良、大伴旅人、大伴家持などが代表的な歌人である。『古今集』『新古今集』と並ぶ古典和歌の高峰とされるが、近代以前には『古今集』が古典として最も重んじられており、『万葉集』はそれと対比される古典として享受されてきた。

B ① 森鷗外

1862年、島根県津和野生れ。満12歳で東大医学部入学。19歳で卒業後、軍医となる。22歳から26歳までドイツへ留学し、衛生学の研究を行う。帰国後ただちに、医学・文学評論、西欧文学の紹介・翻訳を始める。明治23年「舞姫」で小説家デビュー。陸軍軍医として、日清・日露戦争に出征しながら、評論家・翻訳家として旺盛に活動する。福岡県小倉に左遷されるなど不遇時代もあったが、明治40年、45歳で軍医トップの地位となる。

明治42年、雑誌『スバル』が創刊されると、陸軍省官僚としての仕事をこなしつつ、「青年」「雁」などの現代小説を次々に発表する。明治45年7月に明治天皇が崩御し、大葬の日に陸軍大将・乃木希典夫妻が殉死したことに強い衝撃を受け、歴史小説に移行。「山椒大夫」「最後の一句」「高瀬舟」などを発表した。大正5年の「渋江抽斎」以降は、史伝と呼ばれるジャンルを切り拓いた。

晩年、皇室博物館総長や帝国美術院院長を歴任。大11年7月9日、死去。享年60歳。

C ① 主語

主語には多様な捉え方がある。例えば英語では述語の形態が名詞に統語的に支配される。この支配する名詞を主語とみる見方がある。一方、日本語の場合、ガ格が主語を表示するという考え方がある。さらに意味の観点から、属性の持ち主や動作の主体を主語とみる見方もある。このように捉え方が異なることで、主語と言える範囲には差異が生じる。例えば「水が飲みたい」の「水」はガ格で表示され、事態の中心をなすという意味では主語だが、意味的にみれば動作の主体ではない。

日本語の文法における主語という概念の必要性については、否定的な見方もある。三上章の主語廃止論がその代表である。日本語の場合、述語の形態を支配する存在としての主語は認め難いことが、その理由の一つである。

(ABCのいずれも、②以下の解答例は省略。)

2 高等学校の新学習指導要領(2022年度新入生から実施)における、論理力の育成を担う「論理国語」と情緒面を育む「文学国語」という教科国語の科目再編について、利点と問題点をそれぞれ示した上で、自分の考えを述べよ。

(解答例省略)

○解答例

1. 下線部(1)～(4)を和訳せよ。

- (1) 18 世紀の日本は、前世紀末以来の商業的出版業の活性化によって、景気が良くなり大衆文化が栄えた。しかしながら 18 世紀半ば以降、芸術家や作家の間には、商業主義的出版がもつ力を制約的と感じるような、反商業主義的気質が次第に芽生え始めていた。
- (2) 文人と素人という二つの流れは、うまく相互に補い合って、芸術の世界の中に大きな着想源を見出した。大坂の粹人（あるいは旦那衆）の理想は、商売をうまく切り盛りすることができるのと同時に、サロンに参加したり、複数の稽古一詩歌・音曲・書画などを受けたりして、積極的に芸事を究めることであった。
- (3) 「専門家」たちは、これら芸事の師匠として生計を立てることができた。各分野ごとに、師・素人芸人・版元のネットワークがあった。その規模は様々で、あるものは高度に組織立てられ、またあるものはただ単に一個人の周りに派生したものであった。
- (4) 歌舞伎は、この複雑な社会的文化的ネットワーク体系の中で、最も重要な創造的原動力のひとつであった。歌舞伎は決定的に「俗」の世界である。そこでは庶民的なもの、一時的なもの、エネルギー溢れるもの、卑俗なものが、肉体と芝居を通じて世界を支配していた。これと明らかな対照をなすようにして、武士と上流階級の「雅」の世界では、能・古典的和歌・茶道などを通じて、優雅なもの、伝統的なもの、抑制のあるもの、美しいものが、お墨付きを得て高く尊ばれていた。

2. 著者は 18 世紀日本、特に大坂において形成された文化の特徴はどのようなものであったと捉えているか。要約せよ。

18 世紀半ば以降、商業主義の隆盛に対する反発から、幕府の規制や利益追求から自由であろうとする「文人」的な反商業主義的気質が醸成された。特に大坂では、これが商人階級の「素人主義」と結びつき、家業の傍ら多角的に芸事を究める「粹人（旦那衆）」の理想を生んだ。また、文化を駆動する構造として「雅」と「俗」の価値観の拮抗があり、大衆文化のエネルギーを伝統的規範の刷新に利用する動きが活発化した。こうした文化は、師匠・素人・版元の重層的なネットワークに支えられ、「雅」と「俗」の世界が鮮やかに対照をなしつつ共存する、複雑でダイナミックな体系を形成していた点に特徴がある。